

レポートの書き方

ソフトウェア実験委員会

2014 年 4 月 9 日（夜），11 日（昼）

1 はじめに

研究者は，研究成果をレポートや論文などの文章にまとめて公表し，世で広く役立ててもらうことによって，初めて社会に貢献できる．このために科学者が書く文書(科学技術文) は，適切な内容が，理解しやすい順序で，明確に記述されている必要がある．本講義を通して，この科学技術文の記述に関する技術を学んでもらいたい．

2 基本的な注意点

- 章立て：レポートの典型的な章構成を示す。
 1. 目的
 2. 原理・理論
 3. 方法
 4. 結果
 5. 考察
 6. 参考文献
 7. 付録
- 一つの段落では，一つの主題を扱う
- 一つの文では，一つの内容について書く
- 曖昧な文章を書かない
- 文体を統一する（です・ます調と，である調）
- 句読点は「，」と「．」を使う
- 図，表，グラフに，表題をつける．図，グラフの場合は下に，表の場合は上につける
- 参照した本や論文は必ず参考文献として挙げる
- 詳しくは，一年生で受講した「知能情報工学セミナー」内のテクニカルライティングの講義資料を参考にしてほしい